

なりけり、御心のまゝにだにあらば、いみじきつくし九國までもとおぼせど、あやまちなければなりけり、略 中かゝるほどに堀河迄の御こゝちいとおもひて、たのもしげなきよしを世にまうす、さいつころうちに參らせ給て、東三條の大將をばなくなし奉り給てき、いまひとたびとて内にまゐらせ給ひて、よろづをそうしかためていでさせ給にけり、なに事ならんとゆかしければ、まだおとなし、かくて十一月四日准三宮のくらゐにならせ給ぬ、おなじ月八日うせ給ぬ、おほんとし五十三なり、忠義公と御いみなをきこゆ、おはれにいみじ、かくいくばくもおはしませりけるに、東三でうの大なごんをあさましうなげかせたてまつり給ひけるも心うし、をのゝみやのよりたゞのおとゞに、よはゆづるべきよし一日そうし給しかば、そのまゝにどみかど覺しめして、おなじ月の十一日くわんばくのせんじかうぶり給て、よの中みなうつりぬ、あさましくおもはずなることによに申思へり、略 中かくて年もかはりぬ、三年 貞元左のおとゞ、忠 頼の御さまいとくめでたし、おほひめぎみ子 遵をいかで内にまゐらせたてまつらんとおぼす、はかなくてつき日もすぎてふゆになりぬ、ねんがうかはりて天元元年といふ、十月二日除目ありて、くわんばく迄の太じやう大じんにならせ給ぬ、略 中東三でう迄のゝつみもおはせぬを、かくあやしめておはする心えぬことなれば、おほきおとゞたびくそうし給て、やがてこのたびう大じんになり給ぬ、これはたゞつまんのま給ふとおぼさるべし、内には中ぐうのおほしませば、たれもおぼしはゝかれど、ほりかはのおほん心おきてのあさましく心づきなさに、東三でうのおとゞ中ぐうにおちたてまつり給はず、中姫君まゐらせたてまつり給、おほどのゝひめぎみをこそまづとおぼしつれど、ほりかはどのゝおほんこゝろをおぼしはゝかるほどに、みぎのおとゞはつゝましからず覺したちてまゐらせたてまつり給、ことわりにみえたり、まゐらせ給へるかひありて、たゞいまはいとどきにおはします、中ぐうをかくつゝましからずないがしろにもてな